

谷中のこぎり屋根工場 実測調査

台東区谷中の「よみせ通り」沿いに位置するこの建物は、かつて道なりに湾曲して流れていた藍染川と、この地域の繊維手工業の記憶を残す建造物として、数少ない事例となっています。当研究室では、昨年6月に現所有者のご厚意により、建物の実測調査を行いました。今回は、その成果の中から一部をご紹介します。

この建物は、北側からの採光を取り入れる当初の小屋組と屋根形状を残しており、明治から昭和初期に発展した「のこぎり屋根工場」の典型的な姿を現在に伝えています。特に、都心に残る事例として大変希少な例であり、よみせ通りのシンボリック的存在となっています。

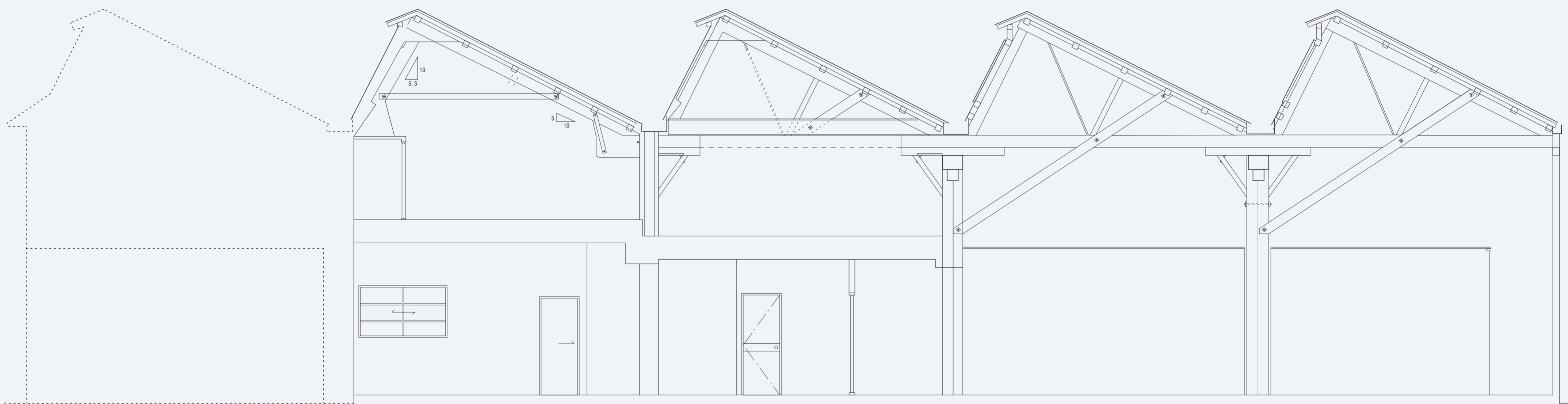
谷根千地域の貴重な近代化遺産として親しまれるこの建物が、今後も保存活用されることを期待しています。

平成21年10月吉日

東京芸術大学美術研究科大学院 文化財保存学専攻保存修復建造物研究室

○ 建築的特徴

- ・ 3間×7間をひとつの単位として、南北方向に5棟を並べた木造の主要構造をもつ。
- ・ 3間×7間の外周には、一間ごとに柱を立て、広い工場空間を確保している。
- ・ 北方向に、屋根の採光を設け、日中通して均一な太陽光を室内に取り入れることを考えた、「のこぎり」型の屋根をもつ。
- ・ 建築当初の小屋組は、梁・筋違・登梁により構成され、その上に母屋を敷き、屋根をのせる。
- ・ 小屋組は、工場として使用していた時期と、2階を設けた時期の、2回に分けて補強が行われたことが判る。
- ・ 第1期補強：梁間方向に、柱から梁、登梁を挟み込む形で斜材(木材)による、補強が施された。
- ・ 第2期補強：2階を設ける際に、広い空間を確保するため、既存の梁を切断し、一段高い位置に鉄骨による新規の梁が設けられた。
- ・ 現在は、北寄りの1棟を車庫とし、次の2棟に2階を設け、南寄り2棟に天井をはって作業場として使用している。



断面図 (縮尺1/50)



南西側から建物を見る



北東側から採光窓を見る

○ 小屋組の変遷



① 小屋組 斜材による補強の様子

建物の一部は、現在2階が設けられており、小屋組の様子が室内に見ることができる。小屋組には、後に斜材（木材）により補強が行われている。2階を設ける前の補強と考えられる。



② 小屋組 鉄骨による補強の様子

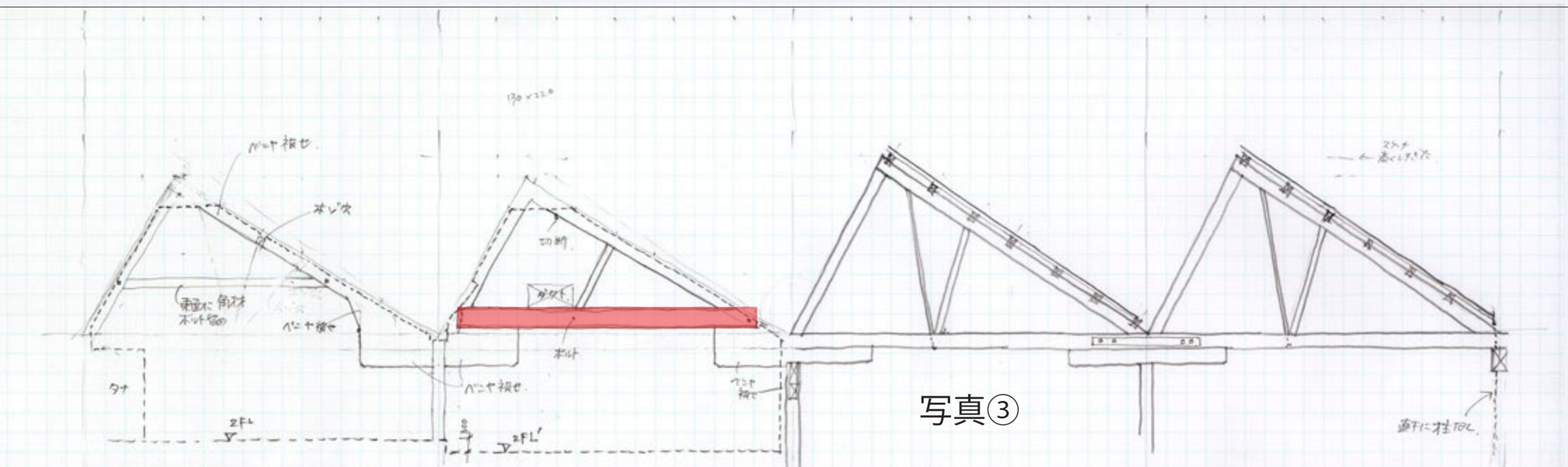
2階を広く使用するために、木造の梁を切断し、代わりに鉄骨の梁（H鋼）が架けられている。写真中央の茶色の梁が、鉄骨による後補の部材である。



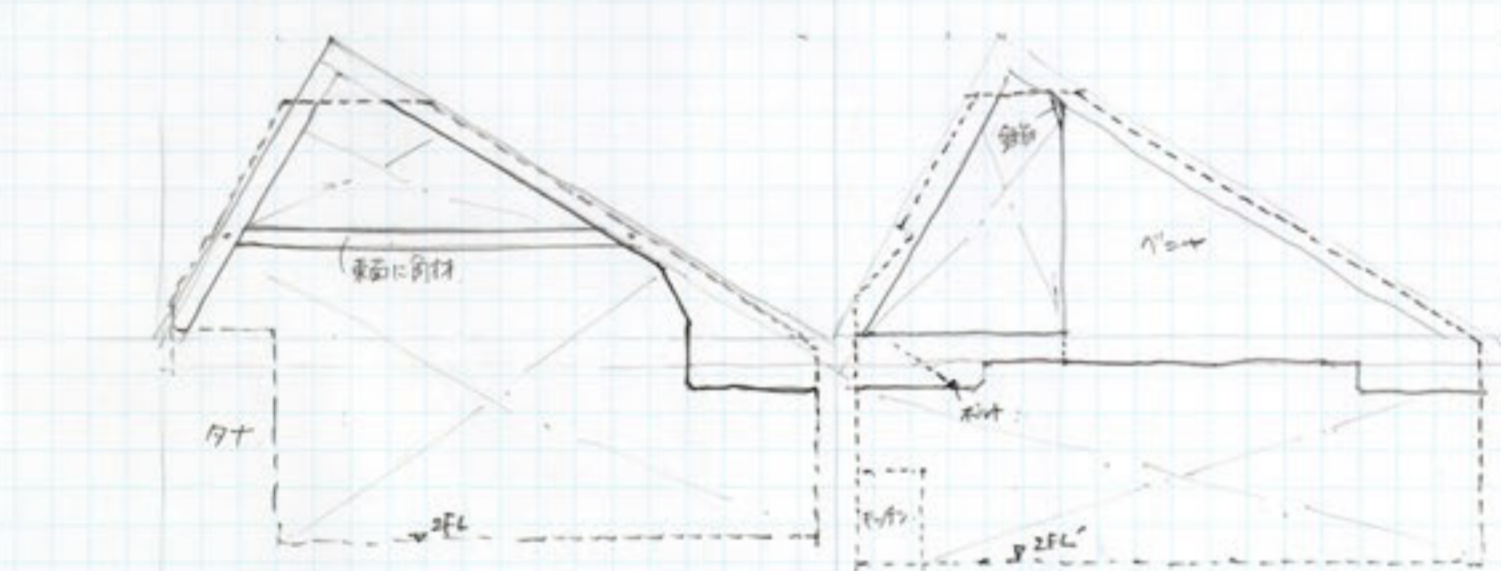
③ 天井裏の小屋組 当初の小屋組

建物の一部は、1階に天井板を張っている。当初は、小屋まで吹き抜けた広い空間として使用されており、写真左側の窓から北方向の緩やかな光が、室内に差し込んでいた。

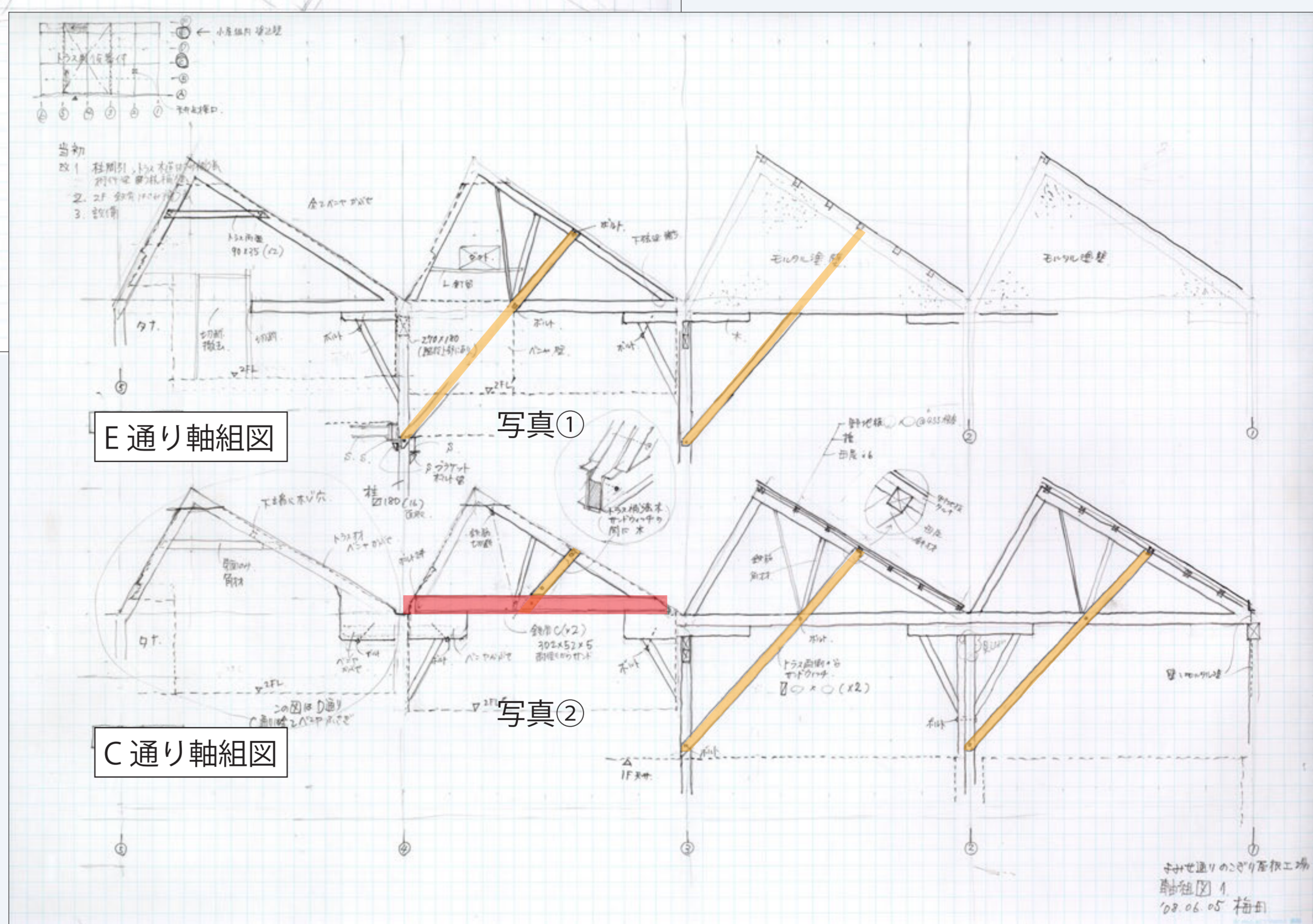
○ 実測野帳



D 通り軸組図

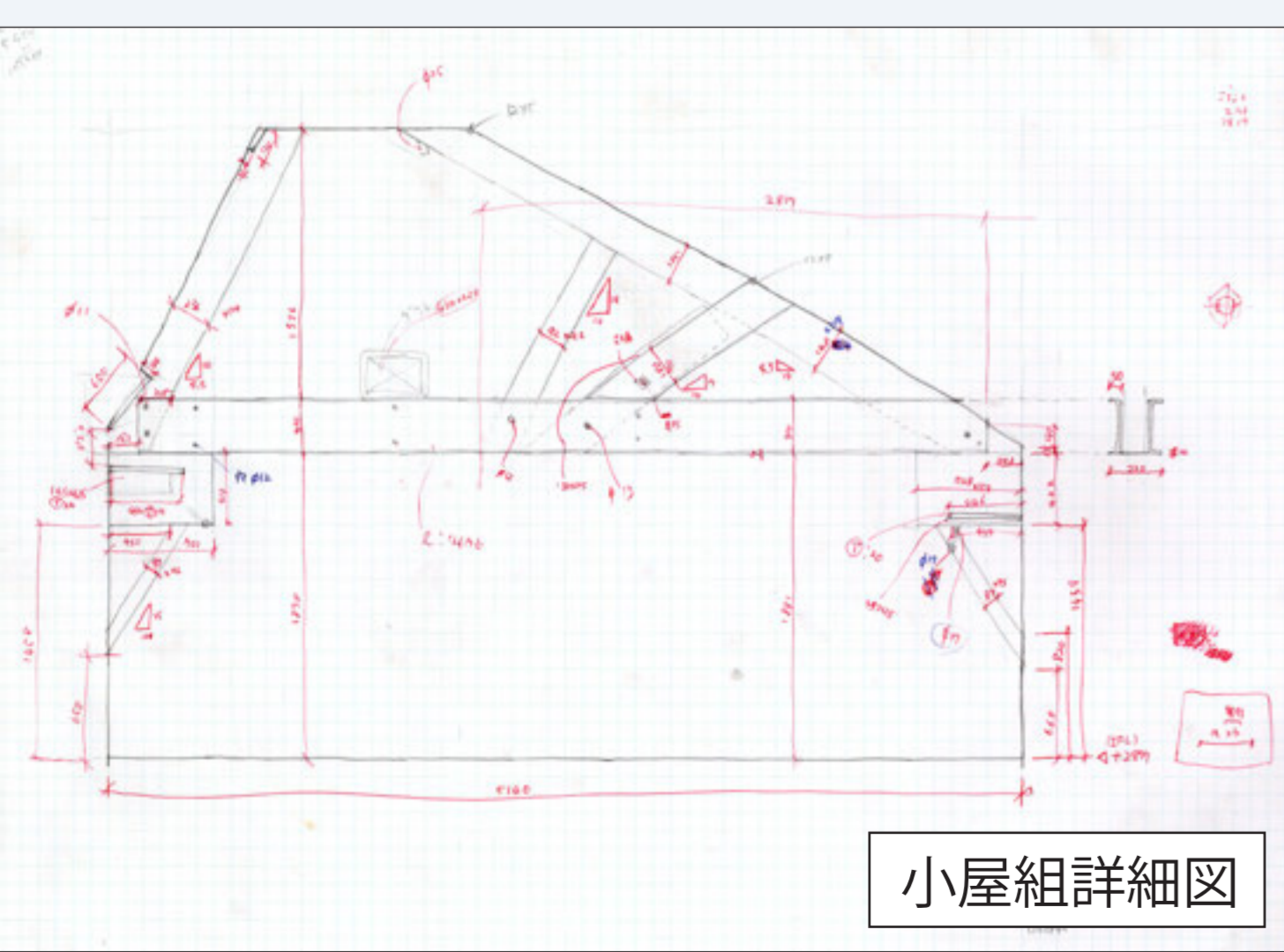


B 通り軸組図

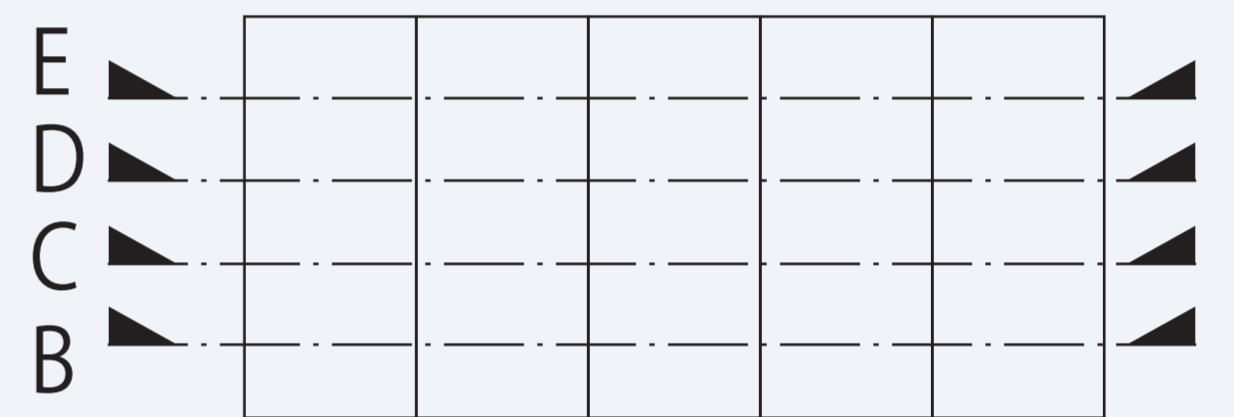


E 通り軸組図

C 通り軸組図



小屋組詳細図



調査者

東京芸術大学美術研究科大学院文化財保存学保存修復建造物研究室 上野勝久、中村文美、内川亜紀、有村耕平、澤口和美、佐藤明生、岩川由紀

調査協力 合同会社もば建築文化研究所 梅田太一